MGC

第93期
中間報告書

2019年4月1日 ＞ 2019年9月30日

三菱ガス化学株式会社

社会と分かち合える価値の創造

証券コード：4182

中期経営計画の重点施策の着実な推進を通じて市況変動にも揺るがない安定した収益基盤の確立と価値創造による成長を目指します。

代表取締役社長　藤井政志

第93期第2四半期事業活動について

株主の皆様には日頃よりご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年9月30日）における世界経済は、全体としては緩やかな回復基調が続きましたが、米中間の通商問題を巡る緊張が高まったほか、中国経済の減速、英国のEU離脱の行方や金融資本市場の変動等による影響が一段と懸念され、先行きへの不透明感が高まりました。国内経済は、輸出を中心に弱さが長引いているものの、雇用情勢の改善が継続するなど、全般的には緩やかな回復の動きを見せました。

当社グループを取り巻く経営環境は、メタノール、ポリカーボネート、高純度イソフタル酸等の汎用品の市況が低水準で推移するなど厳しい状況が続きました。

当社グループの売上高は、メタノールやポリカーボネートの市況が下落したことなどにより、減収となりました。

営業利益は、特殊ポリカーボネートや特殊芳香族化学品の販売数量が増加したものの、前年同期に高い水準を維持していたポリカーボネート、高純度イソフタル酸、メタノール等の市況が大幅に下落したことなどから、減益となりました。

経常利益は、営業利益の減少に加え、サウジアラビア合弁事業の枠組み変更や一過性費用の計上等で海外メタノール生産会社の持分法損益が大幅に悪化したことなどから、減益となりました。

以上の結果、売上高3,033億円（前年同期比250億円減（7.6％減））、営業利益160億円（前年同期比129億円減（44.6％減））、持分法損失38億円（前年同期比211億円悪化）、経常利益116億円（前年同期比348億円減（74.9％減））、親会社株主に帰属する四半期純利益81億円（前年同期比297億円減（78.5％減））となりました。

なお、2019年5月から7月にかけて自己株式の取得（37億円、270万株）および消却（270万株）を行ったほか、11月にも自己株式の取得（50億円（上限）、330万株（上限））および消却（330万株）を決定しました。

また、当期の中間配当金は、前中間期と同額の35円といたしました。

株主の皆様には引き続きご支援、ご鞭撻を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

2019年12月

[中期経営計画]

MGC Advance2020

MGCグループ　もっと大きな夢に！

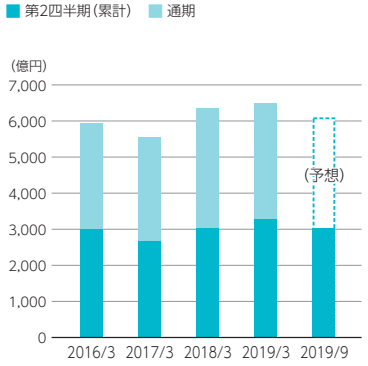
基本方針

1 MGCグループの企業価値の向上
2 MGCグループを取り巻くステークホルダーからの信頼の醸成

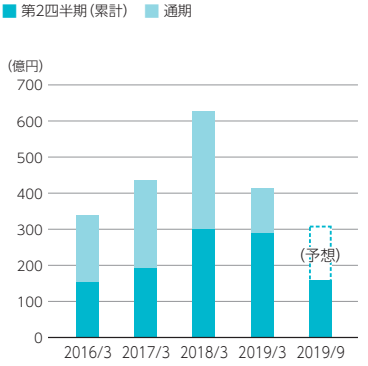
基本方針を実現するための5つの施策

①中核事業を中心とした既存事業の収益力強化
②新規事業の創出と育成
③最適な事業ポートフォリオに向けた投資戦略の実行
④MGCグループ一体となった経営の推進
⑤持続的成長を支える〈質〉の向上

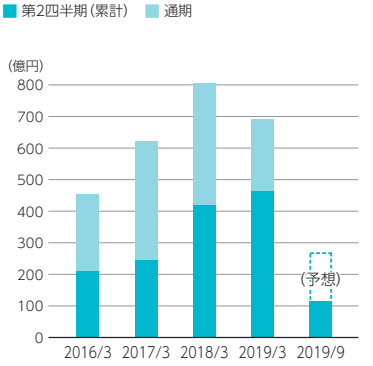
売上高



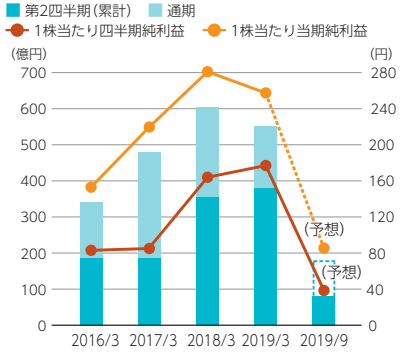
営業利益



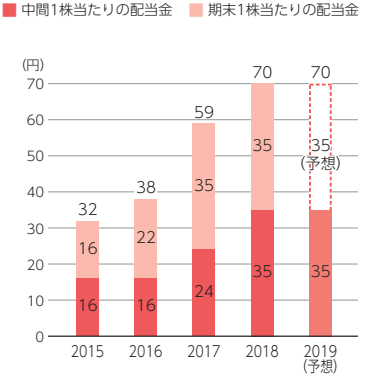
経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益／1株当たり四半期(当期)純利益(注)



1株当たり配当金(注)



(注) 当社は、2016年10月1日を効力発生日として普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、1株当たり四半期（当期）純利益および1株当たり配当金は、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。

事業別営業概況

(2019年4月1日～2019年9月30日)

天然ガス系化学品事業

主要製品　メタノール、アンモニア、メチルアミン、MMA、多価アルコール　等

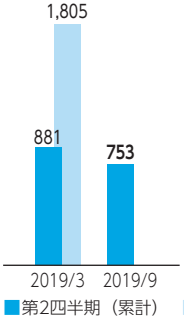
メタノールは、市況が前年同期に比べ下落したことなどから、減収減益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、MMA系製品やネオペンチルグリコールの市況が下落したことなどから、減益となりました。

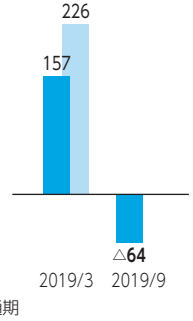
原油その他のエネルギー販売は、原油販売数量の増加などにより、前年同期を上回る結果となりました。

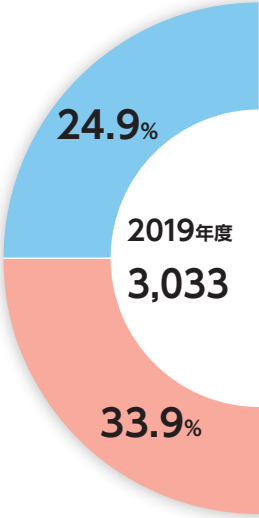
以上の結果、売上高753億円（前年同期比128億円減（14.6%減））、営業損失5億円（前年同期比38億円悪化）となりました。また、海外メタノール生産会社を中心とする持分法損失を55億円計上した結果、経常損失は64億円（前年同期比221億円悪化）となりました。

売上高 (単位:億円)



経常利益 (単位:億円)





芳香族化学品事業

主要製品　メタキシレンジアミン、MXナイロン、芳香族アルデヒド、発泡プラスチック　等

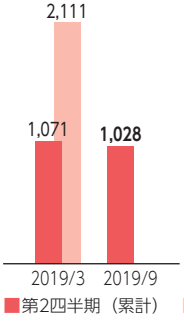
特殊芳香族化学品は、メタキシレンジアミンや芳香族アルデヒドの販売数量が増加したことなどから、増収増益となりました。

汎用芳香族化学品は、高純度イソフタル酸の市況が前年同期に比べ大幅に下落したことなどにより、減収減益となりました。

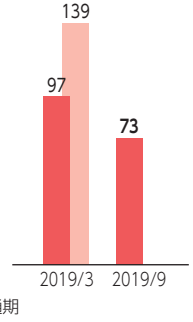
発泡プラスチック事業は、需要低迷の影響や新規需要へ向けた生産体制構築に伴う固定費の増加などにより減益となりました。

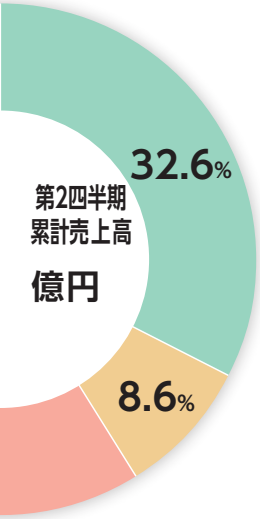
以上の結果、売上高1,028億円（前年同期比42億円減（4.0%減））、営業利益77億円（前年同期比23億円減（23.4%減））、経常利益73億円（前年同期比23億円減（24.5%減））となりました。

売上高 (単位:億円)



経常利益 (単位:億円)





機能化学品事業

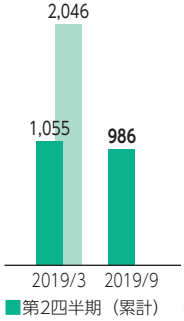
主要製品 過酸化水素、電子工業用薬品、ポリカーボネート樹脂、ポリアセタール樹脂　等

無機化学品は、超純過酸化水素の北米新工場立ち上げに伴う固定費の増加や過酸化水素の採算悪化などにより、減益となりました。

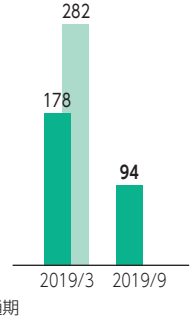
エンジニアリングプラスチックスは、スマートフォン用カメラレンズの複眼化の進展等で特殊ポリカーボネートの販売数量が増加したものの、ポリカーボネートの市況が前年同期に比べ大幅に下落したことなどから、減益となりました。

以上の結果、売上高986億円（前年同期比69億円減（6.5%減））、営業利益80億円（前年同期比61億円減（43.3%減））となりました。また、エンジニアリングプラスチックス関連会社を中心とする持分法利益を16億円計上した結果、経常利益は94億円（前年同期比84億円減（47.3%減））となりました。

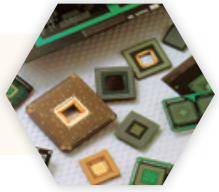
売上高 (単位:億円)



経常利益 (単位:億円)



特殊機能材事業



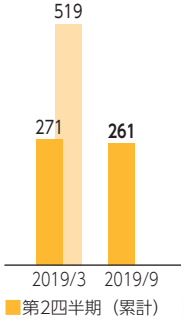
主要製品 プリント配線板用材料、脱酸素剤　等

電子材料は、前年度下期に落ち込んだ需要が戻り、主力の半導体パッケージ用BT材料の販売数量が回復しましたが、前年同期の水準には及ばず、減益となりました。

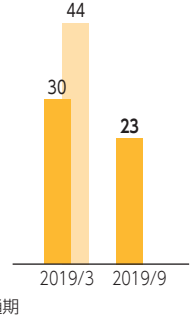
「エージレス®」等の脱酸素剤は、国内菓子用途を中心に堅調に推移したことから、前年同期並みの損益となりました。

以上の結果、売上高261億円（前年同期比10億円減（3.8%減））、営業利益20億円（前年同期比4億円減（18.2%減））となりました。また、持分法利益を2億円計上した結果、経常利益は23億円（前年同期比6億円減（22.7%減））となりました。

売上高 (単位:億円)



経常利益 (単位:億円)

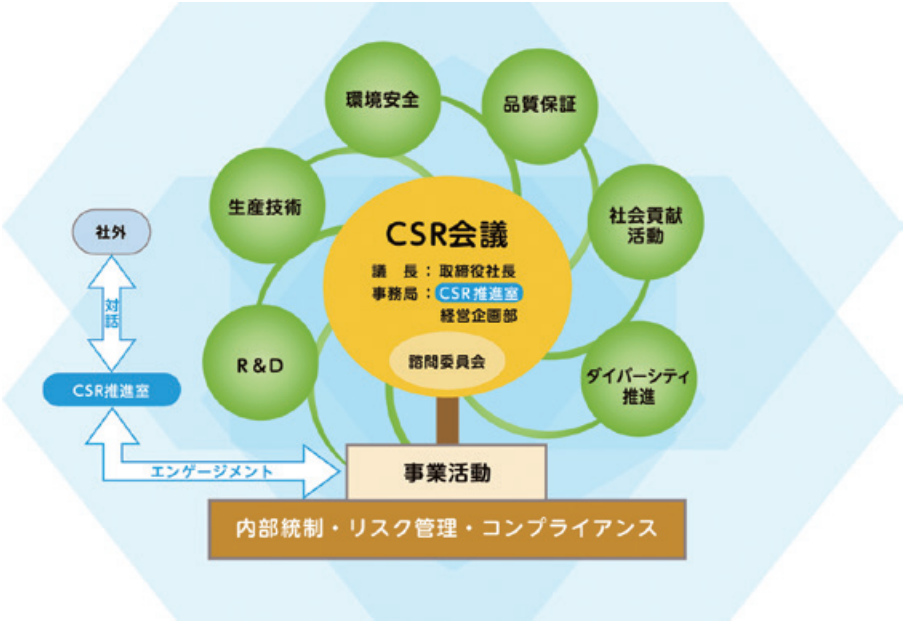


トピックス

CSR推進室の設置

当社はグループビジョン「社会と分かち合える価値の創造」の下、事業活動を展開しております。この度、改めてCSR目線からの経営課題解決を長期的な企業価値の創造および会社の持続的成長を促す経営施策として位置づけ、CSR経営を進めるべく新たにCSR推進室を設置いたしました。

CSR推進室は、部門横断的な社長直属の組織として、環境・社会・企業統治といったESG要因に代表される社内の“非財務情報”を統括し、CSRに係る方針・戦略の検討を行うとともに、社内への働きかけや社外との関係構築を行います。



また、CSR推進に係る方針・戦略・計画等を審議・決定するCSRに関する会議では、経営企画部とともに事務局を担います。

昨今、持続可能な社会の実現に向け、企業が果たす役割への関心も拡大の一途にあります。当社は、CSR推進室の活動を通じて、ESGやサステナビリティに対する社会からの期待に今後尚一層応えてまいります。

ご案内

「コーポレートレポート2019」を発行

今年も財務情報、非財務情報を一冊にまとめた「コーポレートレポート2019」を発行しております。当社webサイト（https://www.mgc.co.jp/corporate/report.html）に掲載しておりますので、ぜひご一読ください。

進化を続けるユピゼータ®EP

スマホのカメラ性能の高度化がますます求められる中、当社の特殊ポリカーボネート「ユピゼータ®EP」は高屈折率（レンズの薄型化に寄与）と低複屈折性（画像の鮮明化に寄与）を高い次元で両立し、カメラレンズに欠かせない材料となっています。9月には最新グレードとして世界最高の屈折率1.68を有する「ユピゼータ®EP-10000」の販売を開始し、スマホカメラの進化を支えています。

また、増加する需要に応え、10月から新プラントを稼働。生産能力を1.7倍に増強するとともに、環境負荷の削減にも取り組んでおり、レンズの製造工程で発生していた廃棄物をゼロにするべく「特殊ポリカーボネート・リサイクルプロジェクト」を開始しています。

新設した特殊ポリカーボネート「ユピゼータ®EP」製造プラント（鹿島工場）

23年ぶりの大規模地熱発電所の稼働開始

当社が電源開発株式会社、三菱マテリアル株式会社とともに共同出資する湯沢地熱株式会社（秋田県湯沢市）は、本年5月より山葵沢地熱発電所の運転を開始しました。本発電所は、出力46,199kWの発電を行いますが、出力10,000kWを超える大規模地熱発電所の稼働は国内では23年ぶりです。

また、同じく当社が出資する安比地熱株式会社（岩手県八幡平市）でも本年8月より安比地熱発電所の建設工事を開始いたしました。2024年4月の運転開始を目指し、引き続き環境に優しい地熱発電の活用を進めてまいります。

山葵沢地熱発電所

連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

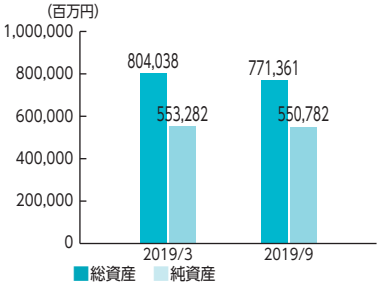
（単位：百万円）

科　　目	当第2四半期（2019年9月30日現在）	前期（2019年3月31日現在）
（資産の部）		
流動資産	**351,937**	**378,845**
現金及び預金	82,444	91,130
受取手形及び売掛金	144,657	155,507
有価証券	89	23
たな卸資産	113,069	119,252
その他	11,677	12,932
固定資産	**419,423**	**425,193**
有形固定資産	**239,674**	**228,492**
建物及び構築物	84,307	81,630
機械装置及び運搬具	80,664	78,700
その他	74,702	68,161
無形固定資産	**10,875**	**8,614**
投資その他の資産	**168,874**	**188,086**
投資有価証券	156,466	177,011
その他	12,407	11,074
❶ **資産合計**	**771,361**	**804,038**

（単位：百万円）

科　　目	当第2四半期（2019年9月30日現在）	前期（2019年3月31日現在）
（負債の部）		
流動負債	**156,766**	**188,420**
支払手形及び買掛金	67,803	80,089
短期借入金	48,448	58,749
その他	40,514	49,580
固定負債	**63,811**	**62,336**
社債	10,000	10,000
長期借入金	26,130	26,615
その他	27,681	25,721
❷ **負債合計**	**220,578**	**250,756**
（純資産の部）		
株主資本	**493,695**	**495,418**
資本金	41,970	41,970
資本剰余金	34,248	34,298
利益剰余金	438,089	439,080
自己株式	△20,612	△19,930
その他の包括利益累計額	**4,083**	**7,542**
その他有価証券評価差額金	11,163	13,023
為替換算調整勘定	△7,482	△6,327
その他	402	847
非支配株主持分	**53,004**	**50,321**
❸ **純資産合計**	**550,782**	**553,282**
負債・純資産合計	**771,361**	**804,038**

■ 総資産／純資産



❶資産合計

流動資産は、受取手形及び売掛金の減少などにより減少しました。
固定資産は、投資有価証券の減少などにより減少しました。

❷負債合計

流動負債は、支払手形及び買掛金が減少したことなどにより減少しました。
固定負債は、資産除去債務が増加したことなどにより増加しました。

❸純資産合計

その他有価証券評価差額金が減少したことなどから、減少しました。

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科　　目	当第2四半期（累計）（2019年4月1日から9月30日まで）	前第2四半期（累計）（2018年4月1日から9月30日まで）
❹ 売上高	**303,369**	**328,376**
売上原価	239,632	252,451
販売費及び一般管理費	47,702	46,974
❺ 営業利益	**16,034**	**28,950**
営業外収益	4,116	20,777
営業外費用	8,460	3,195
❻ 経常利益	**11,690**	**46,532**
特別利益	3,082	1,573
特別損失	362	1,005
税金等調整前四半期純利益	**14,411**	**47,101**
法人税等	4,508	7,129
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,754	2,052
親会社株主に帰属する四半期純利益	**8,147**	**37,919**

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

科　　目	当第2四半期（累計）（2019年4月1日から9月30日まで）	前第2四半期（累計）（2018年4月1日から9月30日まで）
税金等調整前四半期純利益	14,411	47,101
減価償却費	14,407	13,542
持分法による投資利益	3,865	△17,270
持分法適用会社からの配当金の受取額	9,886	7,188
運転資金等	314	△15,967
法人税等の支払額または還付額	△4,221	△3,577
営業活動によるキャッシュ・フロー	**38,663**	**31,016**
設備投資資金等	△21,520	△18,225
投融資資金等	△390	△1,009
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△21,911**	**△19,235**
借入金・社債増減額等	△12,383	△16,059
自己株式の取得による支出	△3,732	△3
配当金支払額	△7,477	△7,476
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△23,592**	**△23,539**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**△1,850**	**760**
現金及び現金同等物の増減額	**△8,431**	**△10,998**
現金及び現金同等物の期首残高	**80,379**	**90,304**
現金及び現金同等物の四半期末残高	**71,947**	**79,306**

❹売上高

メタノールやポリカーボネートの市況が下落したことなどにより、減収となりました。

❺営業利益

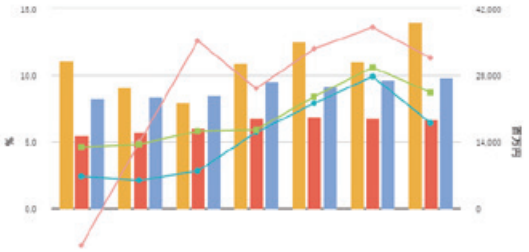
特殊ポリカーボネートや特殊芳香族化学品の販売数量が増加したものの、前年同期に高い水準を維持していたポリカーボネート、高純度イソフタル酸、メタノール等の市況が大幅に下落したことなどから、減益となりました。

❻経常利益

営業利益の減少に加え、サウジアラビア合弁事業の枠組み変更や一過性費用の計上等で海外メタノール生産会社の持分法損益が大幅に悪化したことなどから、減益となりました。

当社HPにチャートジェネレータ※を掲載しました。

※業績をはじめとする各種指標をグラフにカスタマイズして表示できる分析ツールです。



株式の概要

（2019年9月30日現在）

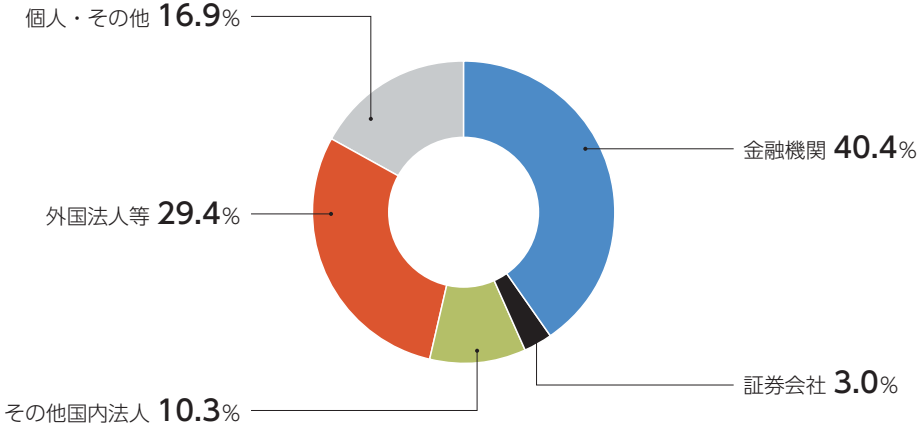
発行可能株式総数	492,428,000株
発行済株式の総数	229,039,199株
株主数	25,760名
上場取引所	東京証券取引所第一部（証券コード：4182）

大株主

株主名	持株数（千株）	出資比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	14,079	6.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	10,352	4.9%
明治安田生命保険相互会社	8,797	4.2%
日本生命保険相互会社	8,795	4.2%
農林中央金庫	5,026	2.4%
AGC株式会社	4,835	2.3%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	3,803	1.8%
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	3,256	1.5%
株式会社横浜銀行	3,085	1.5%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	2,961	1.4%

（注）1. 当社は自己株式を18,065千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 出資比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



会社概要

（2019年9月30日現在）

社　　名 三菱ガス化学株式会社
（登記商号：三菱瓦斯化学株式会社）
MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

本　　社 〒100-8324
所 在 地 東京都千代田区丸の内二丁目5番2号　三菱ビル

創　　業 大正7　（1918）年1月15日

設　　立 昭和26（1951）年4月21日

資 本 金 419億7千万円

従業員数 2,400名（連結：8,937名）

事 業 所 営 業 所：大阪支店
研究所等：東京テクノパーク、新潟研究所、平塚研究所
工 場 等：新潟工場、水島工場、四日市工場、山北工場、鹿島工場、QOLイノベーションセンター白河

役　　員

代表取締役 会長	倉井敏磨	取締役 常務執行役員	加藤賢治	執行役員	柿木良一	監査役 常勤・社外	木村高志
代表取締役 社長	藤井政志	取締役	谷川和生	執行役員	木暮直毅	監査役 常勤	杉田克彦
代表取締役 専務執行役員	水上政道	取締役	佐藤次雄	執行役員	川端嗣二	監査役 常勤	河　邦雄
取締役 常務執行役員	城野正博			執行役員	白井一志	監査役 非常勤・社外	松山保臣
取締役 常務執行役員	稲荷雅人	常務執行役員	長岡成之	執行役員	北川元康		
取締役 常務執行役員	有吉伸久	執行役員	太田貴夫	執行役員	宮本隆行		
取締役 常務執行役員	大久保知彦	執行役員	茅野義弘	執行役員	毛戸　耕		
取締役 常務執行役員	大塚裕之	執行役員	寺岡康郎	執行役員	岩井辰雄		

連結子会社（72社）

MGCターミナル株式会社
株式会社東京商会
株式会社日本ファインケム
菱江化学株式会社
MGCエレクトロテクノ株式会社
MGC PURE CHEMICALS AMERICA, INC.
MGCフィルシート株式会社
THAI POLYACETAL CO., LTD.
MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC.
菱陽商事株式会社
MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD.
三永純化株式会社
三菱瓦斯化学工程塑料（上海）有限公司
巨菱精密化学股份有限公司
MGC PURE CHEMICALS SINGAPORE PTE. LTD.
株式会社JSP
永和化成工業株式会社
米沢ダイヤエレクトロニクス株式会社
MGC ADVANCED POLYMERS, INC.

他　53社

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会権利行使株主確定日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL： https://www.mgc.co.jp/ir/publicinfo.html
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

ホームページではさまざまな
情報がご覧いただけます。

https://www.mgc.co.jp/

株式に関するマイナンバー制度のご案内

マイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となりますため、株主様から、お取引の証券会社等へご提供いただく必要がございます。

【株式関係業務におけるマイナンバーの利用】

法令に定められたとおり、株式に係る各種支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出します。

【マイナンバーのご提供に関するお問い合わせ先】

1）証券会社の口座にて株式を管理されている株主様
…お取引の証券会社にお申し出ください。

2）証券会社とのお取引がない株主様
…三菱UFJ信託銀行にお申し出ください。
連絡先：右記2）ご参照

株式に関するお問い合わせ先

1）証券会社等の口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
お取引の証券会社等にお問い合わせください。

（注）なお、支払期間経過後の配当金支払、郵送物の発送に関するご照会については、下記の特別口座の場合の連絡先をご利用ください。

2）特別口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
三菱UFJ信託銀行株式会社（特別口座管理機関）にお問い合わせください。

連絡先　三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話　0120-232-711（フリーダイヤル）
郵送先　〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

特別口座に関する手続用紙
インターネットによるダウンロードURL：
https://www.tr.mufg.jp/daikou/

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080
VEGETABLE OIL INK